

授業科目名	ダンスワークショップ実習A	担当教員	木田真理子 寺田みさこ
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年第2クォーター		
講義内容	この授業の目的は、ダンサーとしてダンス作品のクリエイションに関わる上で必要な想像力ないし技術を培うものである。振付家や演出家からの指示に従うだけでなく、ダンサーとしてその指示の意味を理解・解釈し、考えを発展させる。短期間で集中して（夏季集中講義になる）、ダンサーの仕事ならびにダンスを巡る仕事に焦点をあてたワークショップを行う。		
到達目標	1.様々な動きからダンスを生み出すことができる。 2.ダンサーに必要な諸能力を示すことができる。 3.振付家や演出家と共同してアイデアを発展させることができる。		
授業計画	<p>実習内容については、実習の初日にあらためて説明する。7～8日間の集中講義（合計48時間）で実施。</p> <p>1：イントロダクション 授業内容・目的・スケジュール・成績評価方法などについて説明。体や空間に対しての解像度を上げるために、任意の映像から動きを取り出しトレースする練習を行う。 *扱う映像はダンス映像に限定しない。映画、テレビ番組、ネット映像、アニメなどでも良い。詳しい手順については実習内で説明する。</p> <p>2：映像から踊りを立ち上げる1（日常の動き） 任意の映像から日常の動きを取り出しトレースする。 動きのクオリティーを映像の動きに近づける。 受講者同士で動きを見せ合い相手の動きを記述する。 記述した内容を伝える。伝える前と後で動きのクオリティーや感覚がどのように変化したのかを話し合う。</p> <p>3：映像から踊りを立ち上げる2（日常の動き） 前回の授業の映像と、映像の動きをトレースすることで生み出された受講者の動きを比較して、日常の動きがダンスになることについて話し合う。 また、トレースされた動きを自由に組み変えることに挑戦する。</p> <p>4：映像から踊りを立ち上げる3（ダンスの動き） ダンス映像から動きを取り出しトレースする。 動きのクオリティーを映像の動きに近づける。 受講者同士で動きを見せ合い相手の動きを記述する。 記述した内容を伝える。伝える前と後で動きのクオリティーや感覚がどのように変化したのかを話し合う。</p> <p>5：映像から踊りを立ち上げる4（ダンスの動き）</p>		

	<p>ダンス映像からトレースされた動きを意図的に変化させ、新たな動きをつくる。</p> <p>6：映像から踊りを立ち上げる5（複雑な動き） ダンス映像から複雑な動きを取り出しトレースする。 動きのクオリティを映像の動きに近づける。 受講者同士で動きを見せ合い相手の動きを記述する。 記述した内容を伝える。伝える前と後で動きのクオリティや感覚がどのように変化したのかを話し合う。</p> <p>7：映像から踊りを立ち上げる6（複雑な動き） 前回の授業の映像と、映像の動きをトレースすることで生み出された受講者の動きを比較して、映像の踊りとライブで見る踊りの違いを話し合う。 トレースされた動きを意図的に変化させ、新たな動きをつくる。</p> <p>8：まとめ 1～7でうまれた動きを体で振り返る。 動きをトレースするとき、なにがトレースされているのか話し合う。</p>
事前・事後 学習	劇場、テレビ、インターネットなどあらゆるメディアを駆使して普段からダンスに触れる時間を確保しておくこと。
テキスト	特に指定なし
参考文献	授業内で適宜紹介する。
成績評価 の基準	平常点：70%（授業内での姿勢・提案・協働、その過程での掘り下げを評価する） レポート30%（各授業のフィードバックペーパー、実習終了後のレポートを評価する）
履修上の注意 履修要件	全日程の参加を原則とするので、日時をしっかりと確認すること。 他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は教員とよく相談の上で履修してください。
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	実習の詳しい内容については、説明会で説明します。 履修を考えている方は履修希望書の提出をお願いいたします。定員（20名/クラス）を超える場合、担当教員が希望書を読んだうえで選考をおこないます。 希望書の無記入、締切後の提出は選考に影響しますので、気をつけてください。